

# 進捗報告書（実行団体）

事業名:	困窮する子育て世帯への切れ目ない応援事業
資金分配団体:	一般社団法人 SINKa
実行団体名:	特定非営利活動法人チャイルドケアセンター
実施時期:	2021年7月～2022年2月
事業対象地域:	福岡県
事業対象者:	子育て中の世帯

Version 1.2

日付：2022/1/18

## I. 事業概要

<b>事業概要</b>
子育て支援は生まれる前から始まっていると考え、産前産後ケア、コロナ対策を講じた子どもの居場所づくり、コロナ禍で一層困難を強いられる保護者の就労等への相談事業を実施する。コロナ禍において社会的に弱い立場にある子ども及び保護者の状況が一層厳しい状況に置かれていることから、産前からの母子父子支援を切れ目なく行い、虐待に発展する状況に陥ることがないように体制を整え、児童虐待、子どもの貧困などと無縁な社会づくりに貢献することを目的とする。

## II. 進捗報告の概要

<b>総括</b>
2021年7月に講師やスタッフ向けに本事業の概要と目標の説明会を開催した。8月、9月はコロナの感染拡大により、緊急事態宣言が発令され、大野城市内の公共施設が閉鎖になり、自粛モードで事業参加への呼びかけがしづらい状況であった。10月からようやく本格始動となった。状況を確認しながら講座に関しては対面とオンラインのハイブリッド方式で環境を整えて行っている

## III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・子育て世帯の父親、母親の育児不安、孤立感の解消</li><li>・子どもが安心できる場の創造</li><li>・母親のキャリアアップ及び就労状況の改善</li></ul>	コロナの感染拡大により、緊急事態宣言が発令され、事業の遅延が見られたが、10月から各事業が開始できた。事業計画においてもコロナの感染拡大の状況により、対面とオンラインのハイブリッド方式で進めるように計画を立てていたが、実際には、オンラインが苦手な方やオンラインの環境が整っていない方が参加できていない。また、小さなお子さんがいる家庭では、カメラにお子さんが反応してしまい、オンラインでは参加しづらいという声も上がった。今後はオンラインの方法をレクチャーを組み込んだ方法も必要かと思われる。告知についても特に事業⑤の就労支援事業では相談希望者が少なかった。「就労相談」という言葉だけでは、すぐに仕事を始める人が受けるイメージが強く、子育て中の母親にはハードルが高い印象を与えたと思われる。「近い将来、仕事を探すには…」や「子どもを育てるにはいくら必要？」など多方面から自分の中長期的なキャリアプランのイメージが持てるように内容を具体的にわかりやすくお示しする必要があったと課題が残る。

活動	進捗状況	概要
<ul style="list-style-type: none"><li>①産前産後支援<ul style="list-style-type: none"><li>・沐浴、乳房ケア、哺乳量測定など</li></ul></li><li>②居場所の拡充<ul style="list-style-type: none"><li>・科学の学校、ごはん塾、お茶の会などの体験プログラムの実施</li></ul></li><li>③支援者の支援<ul style="list-style-type: none"><li>・講座の実施</li></ul></li><li>④相談事業<ul style="list-style-type: none"><li>・不登校、生活不安などの相談に公認心理師が対応した</li></ul></li><li>⑤就労支援<ul style="list-style-type: none"><li>・就労相談の実施</li></ul></li></ul>	遅延あり	<ul style="list-style-type: none"><li>①産前産後支援<ul style="list-style-type: none"><li>・沐浴、乳房ケア、哺乳量測定など21回実施（R3年12月末時点）</li><li>・初めての育児に誰にも相談できずに思い悩んでいる母親も多かった</li></ul></li><li>②居場所の拡充<ul style="list-style-type: none"><li>・科学の学校、ごはん塾、お茶の会などの11回、体験プログラムの実施（R3年12月末時点）</li><li>・子どもたちは初めての体験に喜ぶ姿が見られた。保護者は自宅では出来ない体験に子どもの視野が広がったと喜ばれていた</li></ul></li><li>③支援者の支援<ul style="list-style-type: none"><li>・講座4回、実施（R3年12月末時点）</li><li>・コロナ禍で親子支援の重要性が高まり、支援者の不安や負担が大きくなっている。</li></ul></li><li>④相談事業<ul style="list-style-type: none"><li>・不登校、生活不安などの相談事業を11回実施。公認心理師が対応した（R3年12月末時点）</li><li>・コロナの長期化により、子どもも大人も心の疲れが溜まり不登校や見通しの見えない生活に不安を抱く方が多く、悩みも深くなってきている</li></ul></li><li>⑤就労支援<ul style="list-style-type: none"><li>・就労相談の1回、実施（R3年12月末時点）</li><li>・相談希望者が少なく、相談は1回であった。告知の方法に課題が残っている。</li></ul></li></ul>

#### IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
産前産後ケアや子どもの居場所の拡充、保護者の就労支援などの事業により、子どもや保護者が孤立することなく、社会的ネットワークを広げ、多世代及び多様な人々の地域全体で子どもを育てる社会を目指し、コロナ禍においても児童虐待の防止と早期発見が可能になり、児童虐待、子どもの貧困などとは無縁な社会の実現を目標としていた。その実現のために、本事業を通じて、「育児不安、孤立感を抱える父母の割合低下」、「子どもが安心して過ごすことができる場の創造」、「子育て世帯の母親のキャリアアップ及び雇用不安の解消」を目指し、活動を行ったが、それぞれの事業で課題も見えてきた。育児不安や孤立感がどのくらい低下したのかなどが成果としてわかりやすく示すにはどのようなアンケートを実施すれば良いのか。また、相談事業では相談者と信頼関係を構築でき、今後も相談を続けたいと思っている相談者がいるが、事業の継続が可能であるかどうかなど、事業の参加者のアンケートに加えて、事業に携わった講師やスタッフへのヒアリングも必要であると考えている。

#### V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥0	¥4,821,350	¥4,821,350	¥2,333,293	48%
	管理的経費	¥0	¥1,109,600	¥1,109,600	¥774,558	70%
合計		¥0	¥5,930,950	¥5,930,950	¥3,107,851	52%
補足説明		令和3年12月末までの執行金額				

#### VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>■事業の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の方々のご意見より、「同じ先生に引き続き、相談したい」、「（期間を経て、コミュニケーションが取れるようになり）やっと自分の気持ちを伝えられるようになった」、「先生との信頼ができて、安心できるようになった」などのご意見をいただき、事業の継続の必要性を感じる。・事業継続のための費用不足。</li> </ul> <p>■広報の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が少ない事業があり、広報の方法について、見直しが必要である。</li> </ul> <p>■ニーズのリサーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の事業開催は当法人が子育て支援を行ってきた中で見えてきた課題について、解決に向けて子育て世帯を支援した事業であったが、コロナ禍2年目の状況に即した支援であったか、リサーチする必要があると考える。</li> </ul> <p>■アウトカムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果の評価については、数値として表現しづらいテーマではあるが、アンケートを見直し、ループリック評価方式を行うなどし、利用者の感想を取りまとめることができると良いと思う。</li> </ul>

#### VII. その他

自由記述

#### VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）		
広報制作物等		
報告書等		

#### IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。		
2. 内部通報制度は整備されていますか。		